

みんなで支える森林づくり北信地域会議（第1回） 概要

- 1 開催日時 平成22年6月16日（水）午後13時30分から15時50分まで
- 2 開催場所 山ノ内町よませ活性化センター
- 3 出席者 委員8名
 - ◎ 竹節 義孝 山ノ内町長
 - 高森 壽實夫 北信州森林組合高森副組合長
 - 桑原 重雄 栄村森林組合長
 - 宮崎 正毅 NPO 法人北信州の森林と家をつなぐ会代表理事
 - 鈴木 久男 みどりの少年団北信地区協議会長
 - 竹節 高四郎 自然公園指導員
 - 佐藤 勝志 北信猟友会
 - 笹岡 紀美雄 指導林家
 - ※ 報道 北信タイムス
 - ※ 傍聴等 一般傍聴者なし、中野市、飯山市、山ノ内町、木島平村、野沢温泉村、栄村、北信州森林組合、栄村森林組合（オブザーバー出席）
- 4 現地調査
 - (1) 山ノ内町 吉ノ入団地 H21「みんなで支える里山整備事業」施行地
 - (2) 山ノ内町西小学校 H21「木育推進事業」施工箇所
- 5 開 会
 - (1) あいさつ 窪田地方事務所長
 - (2) 委嘱状の交付
鈴木委員、佐藤委員、笹岡委員、竹節義孝委員、桑原委員、宮崎委員、竹節高四郎委員
- 6 会議事項
 - (1) 長野県森林づくり県民税活用事業の平成21年度実績及び平成22年度計画について
 - ア 森林づくり県民税活用事業1「手入れの遅れている里山での間伐の推進」について
 - イ 森林づくり県民税活用事業3「木育推進事業」について
 - ウ 森林づくり県民税活用事業2「森林づくり推進支援金事業」について
 - (2) 森林づくり指針の改訂について
 - (3) 意見交換

(市町村・森林組合の担当者もオブザーバー出席し、各事業の進捗状況等について補足説明)

主な意見

(森林税活用事業について)

- 木育事業の良さはわかっているが施工面で難しいのではないかと思う。1年前に計画を立てるには早くに情報をいただきたい。
- 農業高校の全国大会が平成24年度に須崎市で開催される。後継者育成といった面から何らかの支援ができないか。また、木育事業も高校を巻き込んだほうが有効と思う。
- カシノナガキクイムシの被害が大量に発生し拡大している状況にある。有効利用等はないか。特に大径木のミズナラに多い。
- カシノナガキクイムシ被害で虫の入る前に伐採したい。それだと、被害木ではなくなってしまう。対応等について林業総合センターへ相談してみたい。
- カシノナガキクイムシ被害地は道路からかなり遠く場所が悪く、大径木のため処理が難しい面がある。
- 昔は、それぞれの農家がナラの木をよく使っていたから被害はなかった。今は、薪ストーブ等が普及してきているので、里山整備を取り入れながら、それらに枯れる前に使ってしまうことも大切ではないか。
- カシノナガキクイムシ被害のミズナラの枯損木をフローリングの板材として活用してみたい。大径木を扱うので搬出が課題であり、作業路等の取り組みを予定している。また、平成21年におがこにを使って見たがキノコの発生は見られた。発生量、種菌に対する安定性が今後の課題である。
- 森林の持つ力はものすごいものがある。漁協関係者の間では、「魚を守るには水を守る」、「水を守るには木を守る」、「木を守るには森を守る」、「森を守るには山を守る」が合言葉となっている。混交林が昨今話題となっているが、混交林施業について県民税を是非投入して施業技術を研究し、子孫のため将来を見据えた「新しい森林づくり」、「新しい山づくり」を是非行い未来の森林づくりに力をいれてほしい。

(森林づくり指針について)

- 苗木生産者は高齢化してきており、後継者育成は重要と思うが、管内で実際、苗木らしい生産をやっている人は2人程であるが、採算さえ取れれば増えるのではないか。
- 森林のもつ多面的機能を高めるうえで、保安林は重要である。生活環境を支えている保安林の適切な管理を進めていただきたい。

- 林業再生といっても、過去の山からの恩恵を受けた時代を知らなければ林業再生ではない。
- 針広混交林が、どうして必要なのか。生産性をあげるには混交林でないほうが良い。外材に対抗するのではなく、独自の特色をどう出していくかが大事ではないか。
- 主伐を見据えての取り組みが必要で、いかに集約化して低コスト化していくか、また境界の明確化について考慮されたい。
- 森林づくりを真剣に考えていかねばならないが、森林に携わる雇用が遅れていること感じられる。



地域会議開催状況